

仏教とお寺をやさしく解説

さんが

Saiganji Sainomiyako Memorial Park News

2010年1月
第3号
(年2回発行)

新年号

発行部数3千部

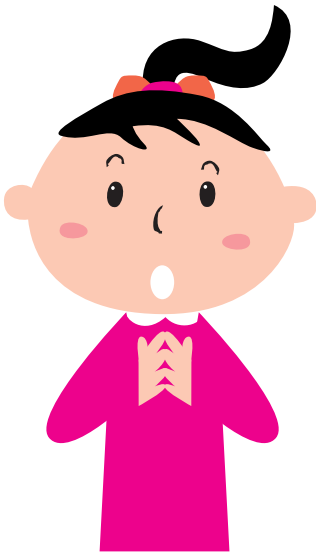


「手を合わせる心」／丹羽義昭副住職インタビュー
シリーズ浄土宗／法然上人ってどんな人
実践教室／法事の意味
仏事相談／仏前に供える花にきまりはあるの？

副住職インタビュー 「手を合わせる心」

毎年、新年を迎えると同時に各地の神社は初詣の参拝客が賑わい、多くの人がお賽銭をして手を合わせている姿が印象的です。

ご本尊に手を合わせる、お仏壇や墓前で手を合わせる、「いただきます」と手を合わせる。手を合わせるにはどのような意味があるのでしょうか。丹羽義昭副住職にお話しを伺いました。



問 今年も残すところ後わずかになりました。お正月には自分の菩提寺以外に初詣に出かける方も多くいると思います。若い方の中にはお寺に参っているのか、神社に参っているのかあまり意識せずお参りしている人もいますね。

義昭師 そうですね。お寺にお参りしていただいてお賽銭をしてパンパンと拍手たしなをうってみたいね（笑）。

問 それは「神さま仏さま」と願い事をするという意識からでしょうか？ 手を合わせるといいうのは仏教の象徴的な動作ですが、合掌する姿、つまり右手と左手を合わせ祈るといいうのはどのような意味があるのでしょうか？

義昭師 合掌は仏教発祥の地、インド古来の敬礼形式に由来すると言われています。それは仏教の歴史より古いそうです。

よく知られているのは、右手を「清浄」、左手を「不浄」と考え、その両手のひらを合わせることで清浄な仏の世界と、私たちの「迷いの世界」がひとつになるという考え方があります。そこには隔たりのない心を表し心からの敬意が表現されているのではないのでしょうか。

問 生活の中ではお仏壇の前や墓前、また最近では少なくなりつつあると耳にする、「いただきます」と手を合わせることなど、私たちはどのような心持で手を合わせるとよいのでしょうか？

義昭師 手を合わせることは、願い事をするための動作ではなく感謝の気持ち、また謙虚である心を表しています。

食事の前に「いただきます」と手を合わせることもいのちを頂いて私たちが生かされていることに感謝して手を合わせているのです。肉も魚も、そして野菜にも、どんなものにもいのちはありますからね、そのいのちを頂いて私のいのちをつないでいく。そ

れがわかると自然と感謝の心も生まれ
てくるでしょう？ いのちを大切にす
る、粗末にしないという心のあらわれ
が「いただきます」の合掌なのですよ。

問 なるほど、普段何気なく食事をし
ていますが、「いただきます」という
言葉も手を合わせるということも意味
のある大切なことなのですね。食事の
とき以外の、日常の中で手を合わせる、
仏壇の前や墓前での合掌も同じように
感謝の気持ちということでしょうか？

義昭師 そうです。わたしが今ここに
生かされていることへの阿弥陀様やご
先祖様に対する感謝の気持ちですね。
手を合わせると謙虚な気持ちになるで
しょう？

問 はい。仏前で静かに手を合わせて
いると不思議と落ち着く気がします。
心で対話しているような気持ちとい
うのでしょうか。

義昭師 それは、仏様と会っていると
いうことに通じるのかもしれないね。
手を合わせるといふことと、例えばわ
たしとあなたが会うといふこと、合う
(会う)という言葉は、文字は違いますが
言語学的な考えからも元々の意味は



同じところからきているそうです。

問 そうなんですか。そう考えると仏
前で手を合わせる意味もわかりやす
ですね。

最近では、核家族化の影響もあつて
か、家に仏壇のない家庭も多いよう
ですね。また、食事のときに手を合わ
せる習慣のないお宅もあると聞きます。
以前には日常生活の中に度々手を合
わせるシーンがあったのですがそれも減
ってきているようですね。

義昭師 公立の学校など教育の現場で
も宗教的な意味合いが強いという理由
から食事の前の「みんなて手を合わ
せる」ということを禁止するところが多
いのが現状なのですよ。いのちの大切
さを教える貴重な時間だと思つのです

が……。とても残念に思います。

問 昔は、普段の生活の中で手を合わ
せるということを通して、誰かに特別
に教わるわけでもなく身につけてい
った感謝や謙虚になる気持ちですが、今
は自分で意識し、また、次の世代に伝
えていくことも大切なのですね。

義昭師 そうですね。初詣では過ぎた
一年に感謝し謙虚な気持ちで新しい年
をむかえられるよう手を合わせていた
だきたいですね。

問 わかりました。本日は、興味深い
お話しをありがとうございました。新
年もよろしくお願いいたします。



●お墓参り一ロメ

年末年始にお墓参りをされる方も多
いと思います

お墓にお参りする際には、まずご本
尊に手を合わせてから墓所へお参りしま
しょう。

法然上人ってどんな人？

浄土宗の宗祖 法然上人は、浄土教の教義をさらに進め専修念仏を主張しました。

それは、それまでの仏教の教義で必要とされた難しい学問も修行もいらない阿弥陀仏を信じ「南無阿弥陀仏」とただひたすら念仏をとることで極楽に往生できると説くものでした。



法然源空は、平安時代末期から鎌倉時代初期を生き浄土宗を開いた日本の僧です。

長承二年（1133）、美作の豪族であった父母のもと（父・漆間時国、母・秦氏）美作国久米南条稲岡（現在の岡山県・久米南町）に生まれた法然上人は、幼名を勢至丸と呼ばれていました。

九歳のとき父が夜襲にあい死の間際の遺言によりあだ討することとせず、母の弟である菩提寺の住職、観覚の弟子となり仏門に入ります。観覚は勢至丸の才能を見出し比叡山におくります。

幼少（十三歳）で比叡山に登った勢至丸は、十六歳で「天台三大部」を読みはじめ三年で読了したといわれる俊秀でした。

（※天台三大部とは、「法華玄義」「摩訶止観」「法華文句」の総称 総計六〇巻からなる）

久安六年（1145）十八歳になると比叡山西塔の黒谷別所の叡空に師事し、法然房源空の名を授かりひたすら仏道に励む探究と精進の日々を過します。

承安五年（1175）法然上人が四十三歳の時、唐の善導大師の書かれた『観無量寿教疏』によって専修念仏に進み、比叡山を下りて京都・東山吉水に居を移し浄土經典の研究を深め念仏の教えを広めました。この一一七五年が浄土宗の立教開宗とされ 阿弥陀仏の本願を信じ南無阿弥陀仏とその名を唱えれば、すべての人が救われると説いた法然上人の教えはたちまち民衆にひろまっています。

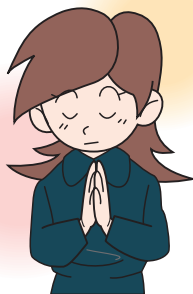
平成二十三年、建暦二年（1212）八〇歳で法然上人が往生してから八〇〇年にあたり浄土宗総本山知恩院では宗祖法然上人八〇〇年大遠忌が盛大に執り行われます。

法事の意味

私たちは、一周忌や三回忌など亡き人を偲び営まれる年忌法要を法事と呼びますが、本来、法事とは「仏法の事」をいう言葉で年忌法要に限らず仏教の行事すべてを言います。

年忌法要などの法事では、亡くなった故人のためだけでなく亡き人を縁にその場に参集した家族、縁者の一人ひとりが仏法に触れ自分のこととして聞き入れることができるということに意義があるものです。

亡き人を偲びつつ、このわたしが仏法を聞く行事、これが法事なのです。



法要の日取り

年忌法要は、亡くなって一年後に勤めるのが一周忌、二年後が三回忌、六年後が七回忌、以後十三回忌、十七回忌…と勤められるのが一般的です。

年忌法要の日取りは、できれば祥月命日（亡くなった同月同日）に行うのがよいとされています。しかし、その日が平日にあたり参列する人たちの都合が悪いなど諸事情で法事の日をずらすこともあります。そのような場合は、日にちを遅く日延べするのではなく、前に繰り上げるようにします。

毎月行う月忌法要（月参り）

月ごとにめぐってくる命日（忌日）を月忌といえます。例えば、○月15日に亡くなった人がいるとすると、毎月15日がその人の月忌ということになります。

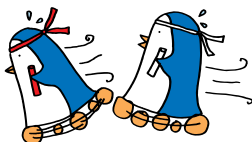
月忌法要（月参り）では、僧侶にきてもらい家族皆が仏壇の前に集まり読経してもらいます。しかし多忙な近年では月忌法要を営む光景は少なくなりました。せめて仏壇の掃除を普段より丁寧にし季節の花を手向けるなど心がけたいですね。

暮らしの中の 仏教語

「しゃかりき」

「試験の前だけはしゃかりきに勉強する」なんて言葉を聞きますが、この言葉、釈迦力と書きます。仏教におけるお釈迦さまの力は絶大です。こうした力をもって衆生を救うため、脇目もふらずがんばる。これにたとえて「しゃかりき（釈迦力）に働く」というようになったそうです。

しゃかりきに勉強した成果ができるのは、やっぱり自分のがんばり次第？



年忌法要	亡くなってから
1周忌	1年後
3回忌	2年後
7回忌	6年後
13回忌	12年後
17回忌	16年後
25回忌	24年後
33回忌	32年後
37回忌	36年後
50回忌	49年後

以後50年ごとに勤める

西願寺 平成22年 年間行事案内

- ※1月 1日(金) 修正会 (新年をむかえての法要=おつとめ)
 - ※2月15日(月) 涅槃会 (お釈迦さまの命日)
 - ◎3月18日(木)~24日(水) 春の彼岸会
 - ※4月 8日(木) 花まつり
 - 5月 1日(土) 西願寺 落慶法要
 - ◎7月13日(火)~16日(金) お盆会 (東京棚経)
 - ◎8月13日(金)~16日(月) 旧盆会 (地元棚経)
 - ◎8月18日(水) 大施餓鬼会
 - ◎9月20日(月)~26日(日) 秋の彼岸会
 - ※11月23日(火) 十夜会 (念仏をとなくて善根をつむ法要=おつとめ)
 - ※12月8日(水) 成道会 (お釈迦さまのお悟りの日)
 - ※12月25日(土) 仏名会 (念仏をとなくて一年を反省する法要=おつとめ)
- ◎印は予定をたてて是非ご参詣ください。
※印は現在、寺だけで自主的に行っている法要=おつとめです。



Q & A

Q 仏前にバラの花を飾って
いたところ知人にバラの
花は良くないと言われました。
仏壇やお墓に飾る花に決まりは
あるのでしょうか？

A バラのようにトゲのある
花や、毒のある花は仏花
としてふさわしいとは言えませ
ん。

しかし、供えるべきお花という
決まりはありません。お花屋さ
んで仏さまのお花として束ねて
売っているものに限らず、華や
かに咲く切り花や庭に植えられ
ているものなど、その時々の子
節を感じられ
るお花をお供
えするもの良
いのではない
でしょうか。



季節の雑学 「除夜の鐘108の意味」

毎年、大晦日の夜には除夜の鐘の音を聞きながら過
ぎた一年を反省し新しい一年に期待を膨らませます。
除夜の鐘と言えば百八の煩惱を表しているというのは
あまりにも有名な話ですが、この百八の数え方には
いろいろな説があります。

その一つが、感覚と心の「六根(眼・耳・鼻・舌・
身・意)」と六根によって感じ、思慮する対象の「六
塵(色・声・香・味・触・法)」、六根、六塵それぞれ
に「好・悪・平(好悪のどちらでもない)」の三つが
あり十八となる。さらにそれらに「染・浄」の二つが
あるので計三十六。そこに「現在・過去・未来」の3
種類があって合計して百八つとなるという説。

心にまといつき、善行を積もうとする心をさまたげ
る「十纏(てん)」と煩惱の異名で衆生を迷いの世界に
しばりつけておくという「九十八結(けつ)」を加えて
百八という説もあります。

また、百八つは一年を意
味しているとも考えられ、
そこでは、「十二月・二十
四気・七十二候」(12+
24+72=108)を象徴
しているとされる。

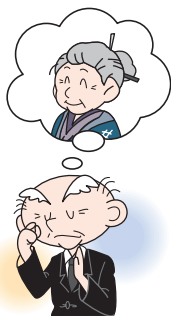


掲 示 板

平成22年 年回表

年ごとの命日を祥月命日といい、年回にあたった年の、この日に行う法要が年回（年忌）法要です。この法要では亡くなった方とご縁のある方が集まり、故人を偲びながらお勤めします。

- 1周忌 平成21年逝去
- 3回忌 平成20年逝去
- 7回忌 平成16年逝去
- 13回忌 平成10年逝去
- 17回忌 平成6年逝去
- 23回忌 昭和63年逝去
- 27回忌 昭和59年逝去
- 33回忌 昭和53年逝去
- 37回忌 昭和49年逝去
- 50回忌 昭和36年逝去
- 100回忌 明治44年逝去



● 葬祭フェア開催 ●

葬儀にまつわる様々なことをわかりやすくご紹介いたします。

是非足をお運びください。

日時…平成22年3月20日・21日
(お彼岸期間中)

9:00~17:00

場所…彩の都メモリアルパーク

永代供養塔「光明苑」 完成のお知らせ

この度、西願寺・彩の都メモリアルパークでは、永代供養塔「光明苑」を建立いたしました。

詳しくは、彩の都メモリアルパーク管理事務所までお問い合わせください。

お問い合わせ…048-921-4194

■ 霊園事務所定休日のお知らせ ■

管理事務所 年末年始休業のお知らせ

◆ 年末年始休業日 ◆

平成21年12月28日(月) ~
平成22年1月6日(水)

年末年始の休業期間は管理事務所における事務手続き、電話問い合わせなどの業務はおこなえません。

尚、墓所へのお参りは通常通り開門しておりますのでご自由にいらしてください。



— 彩の都メモリアルパーク 管理料変更についてのお知らせ —

前回の「さんが」お盆号でお知らせいたしました次年度からの管理費変更についてですが、平成23年度から消費税込の管理料に変更とさせて頂くことになりました。変更後の金額につきましては改めてご案内させていただきます。

※次年度（平成22年度）は今までどおりの管理料です。

■ お詫び ■

「さんが」お盆号（第2号）で誤植がありましたことを謹んでお詫び申し上げます。

表紙/目次におきまして丹羽義昭副住職の名前に誤った記載がありました。皆さまには大変ご迷惑をおかけいたしました。



■お便り募集

編集部では皆さまからのお便りを募集しております。仏事の疑問や悩みごと、身近なできごとや日頃感じていること、川柳など、どうぞお気軽にお寄せください。紙面でご紹介させて頂きたいと思えます。また、「さんか」についてのご感想もお待ちしております。

◆イオ株式会社

西願寺・彩の都メモリアルパーク通信「さんか」編集部
東京都千代田区飯田橋四一七十一 カクタス飯田橋ビル七階
FAX 〇三―三三六五―三九一 Mail: info@io-conet

■次号予告

次号は平成二十二年六月発行予定の「お盆号」です

◆編集後記

ついこの間、お正月を迎えたと思ったらもう暮れです。一年が経つのを本当に早く感じるようになってしまったこの頃に、今年はどうな一年だったか反省の意味を込め振り返ってみると、今年にはチェンジの言葉をキーワードに世界的にも日本の政治の世界でも変革の一年だったようです。私はどうだったかなあ…。

さて、「さんか」も二年目を迎えこちらは、一歩一歩を積み重ねます。ますます充実紙面づくりを目指し皆さまの期待にそえるよう今後も努力していくつもりです。新年もどうぞ宜しくお願いたします。

発行者

遊馬山一行院 西願寺

〒三三四〇一〇〇三三 埼玉県草加市遊馬町四三〇番地

電話 〇四八一九二五―七三三

FAX 〇四八一九二五―七八九

彩の都メモリアルパーク

〒三三四〇一〇〇三三 埼玉県草加市遊馬町一六〇―一九

電話 〇四八一九二―四一九四

FAX 〇四八一九二―四一九五

企画・編集・製作

西願寺 丹羽義昭副住職

イオ株式会社 西願寺・彩の都メモリアルパーク通信

「さんか」編集部